

2021年2月17日

名古屋市獣医師会と日産自動車、電気自動車を活用した「災害連携協定」を締結 ～日産災害連携協定初、獣医師会との協定締結～

公益社団法人名古屋市獣医師会(愛知県名古屋市中区大須、会長:三浦 春水)と、日産自動車株式会社(本社:神奈川県横浜市西区、社長:内田 誠)、ならびに愛知日産自動車株式会社(本社:愛知県名古屋市熱田区桜田町、社長:高橋 博文)、及び日産プリンス名古屋販売株式会社(本社:愛知県名古屋市千種区吹上、社長:久保田 成一)の4者は、17日、電気自動車を活用した「災害連携協定」を締結しました。

本協定の内容は、名古屋市獣医師会が、『電気自動車(EV)の普及を通じて、自助力、共助力向上を図るため電気自動車を非常用電源として活用できる体制の構築に加え、地震災害等による大規模停電が発生した際に、名古屋市獣医師会が指定する動物病院等において、日産の販売会社である愛知日産自動車、日産プリンス名古屋販売より貸与される電気自動車(EV)「日産リーフ」を電力源として活用することで、動物病院等の運営を円滑に行い、動物の生命を守る』というものです。

名古屋市獣医師会では、公衆衛生事業・動物愛護事業・学術事業などの公益活動を通して、人と動物が快適に生活できるまちづくりを目指しています。また、災害時に、動物たちやその飼い主、動物医療従事者が、安心・安全に生活できるよう、防災対策や、BCP(事業継続計画)体制構築にも積極的に取り組んでいます。

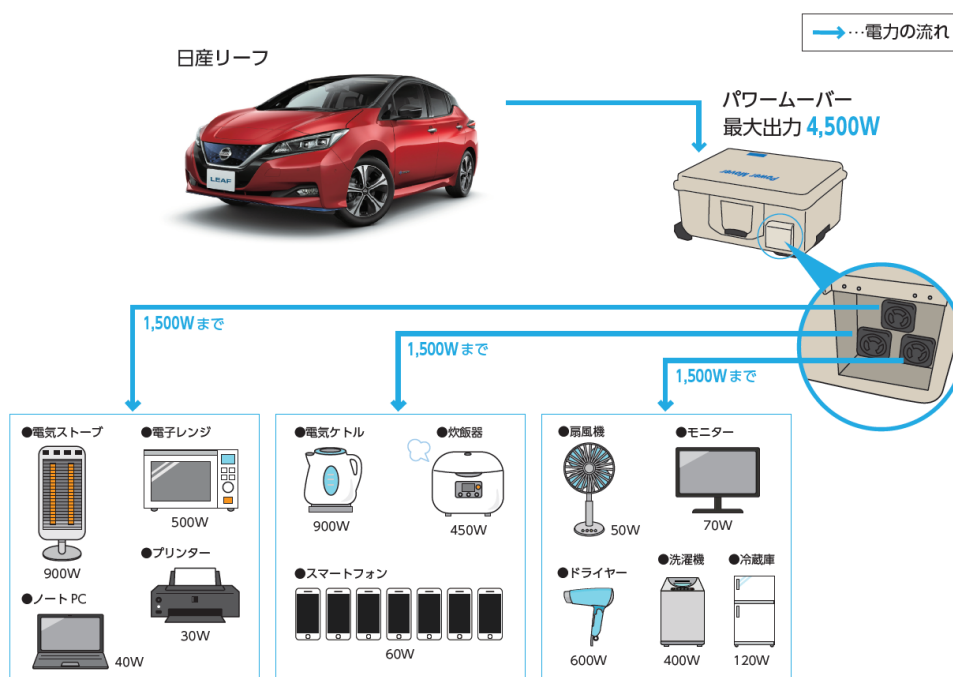
一方、日産自動車は、他社に先駆けて、2010年に電気自動車(EV)「日産リーフ」を量産化し、その発売以降、電気自動車のパイオニアとして車両の高性能化を進めてきました。電気自動車(EV)は、静かで振動が少なく、排出ガスゼロで匂いもほとんどないことから、嗅覚に敏感な動物にも優しい移動手段としての活用も期待されています。また、日産自動車は、日本が抱える環境負荷低減や災害対策等の課題を解決するため、2018年5月に日本電動化アクション『ブルー・スイッチ』を発表し、その活動を牽引するリーダーとして、全国の自治体や企業と協力して、電気自動車(EV)普及を通じた社会の変革に積極的に取り組んでいます。そして、「ブルー・スイッチ」活動の推進を通じて、温暖化対策、防災・減災、エネルギーマネジメント、観光、過疎化などの地域課題の解決に取り組み、SDGsの達成に貢献しています。

この日産自動車が推進する『ブルー・スイッチ活動』、そして、名古屋市獣医師会の動物愛護や動物の生命を守るための防災対策と、双方の取り組みに相互が賛同し、本協定の締結を行う運びとなりました。

電気自動車を活用した「災害連携協定」の概要は、以下の通りです。

【協定の概要】

- ・ 名古屋市で災害を起因とする停電が発生した際、名古屋市獣医師会が指定する動物病院や夜間動物救急センター等に、愛知日産自動車、日産プリンス名古屋販売の店舗に配備している電気自動車(EV)「日産リーフ」を無償で貸与する。
- ・ 名古屋市獣医師会、日産自動車、愛知日産自動車および日産プリンス名古屋販売の協力により電気自動車(EV)からの給電を行うことで、災害時においても継続して電力が供給できる体制を整え、名古屋市獣医師会指定の動物病院や夜間動物救急センター等の円滑な運営及び、動物、飼い主、動物医療従事者の安全を確保し、動物の生命を守る。



災害発生時の「日産リーフ」からの電力供給イメージ図

名古屋市獣医師会では、名古屋市獣医師協同組合を通じ、BCP 対策としての電気自動車 (EV)「日産リーフ」の導入やEVから電気を取り出す可搬型給電器の導入検討など、今後も更なる EV 普及・促進の取り組みを推進し、災害時に人および動物の生命を守り、動物病院等の円滑な運営ができる体制を強化していきます。

日産自動車は、人々の生活を豊かに、を目的に、「ニッサン インテリジェント モビリティ」を推進し、独自性にあふれ、革新的なクルマやサービスをお届けすると共に、「ゼロ・エミッション(排出ガスゼロ)」「ゼロ・フェイタリティ(交通事故による死亡・重傷者数ゼロ)」に取り組んでいます。また、政府の推進する「2050 年までに、温室効果ガスの排出をゼロにする、すなわち 2050 年カーボンニュートラル、脱炭素社会の実現」に寄与すべく、電気自動車 (EV) の普及を目指しています。そして、『ブルー・スイッチ』の推進に加え、電気自動車 (EV) というクルマの販売にとどまらず、EV がもたらす豊かな生活の実現、そして EV が成し得る社会変革のために、EV の生み出す新たな価値を世界に発信し続け、よりよい社会づくりへの貢献を目指しています。

今回の「災害連携協定」も、日産のブルー・スイッチの活動に基づくものであり、日産自動車と締結した災害連携協定としては、初の獣医師会との協定締結となり、本協定が全国で 83 件目の締結となります。また、EV を活用したエネルギーマネジメントや観光などを含む、ブルー・スイッチ活動としては 112 件目の取り組みとなります。

名古屋市獣医師会と日産自動車は、今後もこの協定締結を機に、防災対策を強化し、電気自動車 (EV) を活用した、人・動物、環境に優しく、災害に強いまちづくりを推進していきます。そして、嗅覚に敏感な動物の移動手段や、走る蓄電池としての EV 活用の他、電気自動車 (EV) の普及を通じた地域課題の解決に向けて、更に連携を強化してまいります。

以上

日本電動化アクション「ブルー・スイッチ」ウェブサイト：<https://ev.nissan.co.jp/BLUESWITCH/>

非常時の動物病院を支える EV の電力(動画)：<https://youtu.be/47MSFRKOj-8>